

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向 平成 26 年 9 月

○ 概要

(1) 平成 26 年 9 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 5,822 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）6.6%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 8,843 円（伸び率▲0.2%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,449 億円（伸び率 6.9%）、薬剤料が 4,363 億円（伸び率 6.5%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 587 億円（伸び率 27.4%）であった。（→P.4）

3要素分解 （→P.8~9）	処方せん1枚当たり 薬剤料	処方せん1枚当たり 薬剤種類数	1種類当たり 投薬日数	1種類1日当たり 薬剤料
実数	5,502 円	2.86 種類	22.6 日	85 円
伸び率（%）	▲1.0	▲0.5	+2.3	▲2.7

(2) 薬剤料の約 85%を占める内服薬 3,622 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）201 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 892 億円（伸び幅▲9 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 11 中枢神経系用薬の 56 億円（総額 621 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 （→P.10~15）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,622 億円 （+201 億円）	21 循環器官用薬 （892 億円）	11 中枢神経系用薬 （621 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（485 億円）
0 歳以上 5 歳未満	38.3 億円 （+0.15 億円）	44 アレルギー用薬 （16.1 億円）	61 抗生物質製剤 （10.3 億円）	22 呼吸器官用薬 （5.6 億円）
5 歳以上 15 歳未満	80.0 億円 （+5.56 億円）	44 アレルギー用薬 （36.8 億円）	61 抗生物質製剤 （13.3 億円）	11 中枢神経系用薬 （11.8 億円）
15 歳以上 65 歳未満	1,272 億円 （+43 億円）	21 循環器官用薬 （275 億円）	11 中枢神経系用薬 （274 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（178 億円）
65 歳以上 75 歳未満	913 億円 （+74 億円）	21 循環器官用薬 （273 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（144 億円）	11 中枢神経系用薬 （109 億円）
75 歳以上	1,319 億円 （+78 億円）	21 循環器官用薬 （342 億円）	11 中枢神経系用薬 （225 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（158 億円）

(3) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 8,843 円（伸び率▲0.2%）で、最も高かったのは石川県（11,118 円（伸び率▲0.4%））、最も低かったのは佐賀県（7,519 円（伸び率 1.1%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは北海道（伸び率 2.1%）、最も低かったのは奈良県（伸び率▲1.6%）であった。（→P.27~28）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品薬剤料】 587 億円（伸び率：27.4%、伸び幅 126 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	56.1%	+8.9%
薬剤料ベース	13.5%	+2.2%
後発品調剤率	60.4%	+6.1%
（参考）数量ベース（旧指標）	37.0%	+6.2%

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕〕 で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+27.4%	+44.5% （5 歳以上 10 歳未満）	+14.7% （60 歳以上 65 歳未満）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	13.5%	14.4% （65 歳以上 70 歳未満）	9.3% （5 歳以上 10 歳未満）

【後発医薬品（内服薬） 薬効大分類別】（→P.38~44）

年齢区分 （→P.38~44）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	520 億円 （+108 億円）	21 循環器官用薬 （145 億円）	23 消化器官用薬 （98 億円）	11 中枢神経系用薬 （59 億円）
0 歳以上 5 歳未満	4.71 億円 （+1.49 億円）	22 呼吸器官用薬 （1.88 億円）	61 抗生物質製剤 （1.27 億円）	44 アレルギー用薬 （0.91 億円）
5 歳以上 15 歳未満	8.58 億円 （+2.73 億円）	44 アレルギー用薬 （3.56 億円）	61 抗生物質製剤 （2.13 億円）	22 呼吸器官用薬 （1.58 億円）
15 歳以上 65 歳未満	175 億円 （+30 億円）	21 循環器官用薬 （45 億円）	23 消化器官用薬 （29 億円）	11 中枢神経系用薬 （23 億円）
65 歳以上 75 歳未満	136 億円 （+30 億円）	21 循環器官用薬 （47 億円）	23 消化器官用薬 （26 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（15 億円）
75 歳以上	196 億円 （+43 億円）	21 循環器官用薬 （53 億円）	23 消化器官用薬 （43 億円）	11 中枢神経系用薬 （27 億円）

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	891 円	1,229 円（岩手県）	718 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+19.2%	+30.2%（秋田県）	+11.3%（沖縄県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	56.1%	70.1%（沖縄県）	46.5%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	13.4%	17.6%（鹿児島県）	10.6%（徳島県）
後発医薬品調剤率	60.4%	72.4%（沖縄県）	53.3%（徳島県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	37.0%	48.6%（沖縄県）	31.2%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成26年9月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。